（様式第11）

18年4月～19年3月

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
プロテオミクスを用いた抗癌細胞自己抗体の検出と同定	今福裕司	臨床検査医学	1,100千円	補 委	文部科学省科学研究費
組織工学的手法を用いた気道再生の基礎的・臨床的研究	大森孝一	耳鼻咽喉科	12,822千円	補 委	厚生労働省科学研究費
先天性サイトメガロウイルス感染症による聴覚障害の実態調査並びに発症予防を目指した基礎的研究	大森孝一	耳鼻咽喉科	16,625千円	補 委	厚生労働省科学研究費
頭頸部管腔臓器再生における血管新生と組織修復機構の解明	大森孝一	耳鼻咽喉科	5,800千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
内耳性難聴に対する細胞移植と人工内耳の併用治療に関する基礎的研究	大森孝一	耳鼻咽喉科	1,300千円	補 委	文部科学省科学研究費
気管再生における移植細胞のはたす役割の解明	多田靖宏	耳鼻咽喉科	2,100千円	補 委	文部科学省科学研究費
脱神経性萎縮防止に関する実験的研究：流入型端側神経縫合の検討	上田和毅	形成外科	７００千円	補 委	文部科学省科学研究費
TGF-βシグナルを制御するユビキチンリガーゼの異常と癌のメカニズムに関する研究	竹之下誠一	第2外科	2,000千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
チミジンホスホリラーゼを標的としたクローン病治療体系の確立	竹林勇二	第2外科	800千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
画像解析ネットワークを利用した地域全体の乳癌治療方針の画一化に関する研究	渡辺久美子	第2外科	1,200千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
プロテオグリカンを用いた腫瘍マーカーおよび、血行転移阻害剤開発のための基礎研究	竹之下誠一	第2外科	1,700千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
ハイプティック計測による卵子・培養組織のバイオクオリティ評価システムの開発	竹之下誠一	第2外科	4,971千円	補 委	都市エリア産学官連携事業

小計 12

（注）1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。
2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。
3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

（様式第11）

18年4月～19年3月

高度の医療技術の開発及び評価の実績

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
MEMSによるハプティック（触覚）型超音波診断システムの開発	竹之下誠一	第2外科	2,195千円	補 委	地域新生コンソーシアム研究開発事業
マイクロカテーテルシステムを用いたコンピューター制御下のドラックデリバリーシステムの確立	竹之下誠一	第2外科	7,200千円	補 委	うつくしま次世代医療産業集積プロジェクト助成金
女性骨盤底機能障害の解剖学的および機能的研究	嘉村康邦	泌尿器科学講座	50千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
閉塞膀胱の機能低下とアンジオテンシンⅡレセプターの関与及びブロッカーの予防効果	相川 健	泌尿器科学講座	120千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
腎癌の浸潤、増殖におけるHMGB1およびRAGEの関与についての検討	櫛田信博	泌尿器科学講座	140千円	補 委	日本学術振興会科学研究費
ラット膀胱虚血モデルでのβアドレノレセプターを介した膀胱弛緩における検討	野宮正範	泌尿器科学講座	90千円	補 委	日本学術振興会科学研究費

小計 6

合計 71

（注）1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入する事。

2「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入する事。

3「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に○印をつけた上で補助元又は委託元を記入する事。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Leukemia, 20 (4), 627-634, 2006 (平成18年4月)	Leukemia, 20 (4), 627-634, 2006	岡本正俊	第一内科
International Journal of Hematology, 83 (4), 337-340, 2006 (平成18年5月)	Recurrent extramedullary relapse of acute promyelocytic leukemia after allogeneic stem cell transplantation: successful treatment by arsenic trioxide in combination with local radiotherapy	甲斐龍幸	第一内科
Haematologica, 91 (6), 856-857, 2006 (平成18年6月)	The frequency of HLA class I alleles in Japanese patients with bone marrow failure	七島 勉	第一内科
Cardiovascular Research, 71 (3), 537-547, 2006 (平成18年8月)	Attenuated cardioprotection by ischemic preconditioning in coronary stenosed heart and its restoration by carvedilol	渡部研一	第一内科
Molecular and Cellular Biochemistry, 291 (1-2), 21-28, 2006 (平成18年10月)	Carbon monoxide and bilirubin from heme oxygenase-1 suppresses reactive oxygen species generation and plasminogen activator inhibitor-1 induction	松本勇人	第一内科
Coronary Artery Disease, 17 (7), 629-635, 2006 (平成18年11月)	Differing effects of metoprolol and propranolol on large vessel and microvessel responsiveness in a porcine model of coronary spasm	武藤 満	第一内科
Fukushima Journal of Medical Science, 52 (2), 87-102, 2006 (平成18年12月)	Estimation of microinhomogeneity of conduction impairment by wavelet analysis during early phase of myocardial ischemia in pigs	古川哲夫	第一内科
Arteriosclerosis, Thrombosis and Vascular Biology, 26 (12), 2614-2621, (平成18年12月)	Hydrogen peroxide: a feed-forward dilator that couples myocardial metabolism to coronary blood flow	斎藤修一	第一内科
Circulation Journal, 71 (3), 390-396, 2007 (平成19年3月)	Comprehensive analyses of arrhythmogenic substrates and vulnerability to ventricular tachycardia in left ventricular hypertrophy in salt-sensitive hypertensive rats	亀井賢一	第一内科
Journal of Cardiology, 49 (3), 109-114, 2007 (平成19年3月)	Correlation between exercise electrocardiography test and coronary flow reserve in patients without organic coronary artery stenosis	三次 実	第一内科
Fukushima J Med Sci, 52(1), 13-19, 2006 (平成　年　月)	A case of hepatic angiosarcoma supplied by both hepatic artery and portal vein.	星 奈美子	第二内科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Fukushima J Med Sci, 52(2), 71-77, 2006. (平成 年 月)	Clinicolaboratory characteristics of japanese patients with primary biliary cirrhosis-autoimmune hepatitis overlap.	斎藤広信	第二内科
Fukushima J Med Sci, 52(2), 79-85, 2006. (平成 年 月)	Possible association of cytotoxic t lymphocyte antigen-4 genetic porymorphism with liver damage of primary biliary cirrhosis in japan.	菅野有紀子	第二内科
Fukushima J Med Sci, 52(2), 103-109, 2006. (平成 年 月)	Usefulness of complement split product, Bb, as a clinical marker for disease activity of lupus nephritis.	渡辺浩志	第二内科
Fukushima J Med Sci, 52(2), 135-142, 2006. (平成 年 月)	Case of an elderly man with associated henoch-schonlein purpura during treatment of acute pancreatitis.	佐藤秀三	第二内科
Fukushima J Med Sci, 52(2), 149-155, 2006. (平成 年 月)	A case of rapidly expanding and increasing focal nodular hyperplasia.	佐藤 愛	第二内科
International Journal of Molecular Medicine, 18, 273- (平成 年 月)	Expression of TNF-□, tristetraprolin, T-cell intracellular antigen-1 and Hu antigen R genes in synovium of patients with rheumatoid arthritis.	鈴木英二	第二内科
International Journal of Molecular Medicine, 17, 801- (平成 年 月)	Gene transduction of tristetraprolin or its active domain reduces TNF-□ production by Jurkat T cells.	鈴木英二	第二内科
The Internet Journal of Radiology. 5(1), 2006. (平成 年 月)	"Angel Halo Esophageal Varix" on endoscopic varicealography In patient with extrahepatic portal vein obstruction.	今村秀道	第二内科
Intern Med. 45(10), 1059-1063, 2006. (平成 年 月)	CD8-positive T cell-induced liver damage was found in a patient with polymyositis.	高橋敦史	第二内科
Intern Med. 45(12), 1217-1220, 2006. (平成 年 月)	A recovery case of acute-onset autoimmune hepatitis presented as fluminant hepatic failure, who received living donor-liver transplantion.	高橋敦史	第二内科
J Neuroimmunol, 181(1-2), 150-156, 2006. (平成 年 月)	Anti-triosephosphate isomerase antibodies in cerebrospinal fluid are associated with neuropsychiatric lupus.	佐々島朋美	第二内科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Mod Rheumatol, 16(2), 92-96, 2006. (平成　年　月)	A case of idiopathic portal hypertension associated with rheumatoid arthritis.	佐々島朋美	第二内科
Mod Rheumatol, 16(2), 109-112, 2006. (平成　年　月)	A case of systemic lupus erythematosus complicated by pure red cell aplasia and indiopathic portal hypertension after thymectomy.	岩舘治代	第二内科
Mod Rheumatol, 16, 220-225,2006 (平成　年　月)	Doppler sonographic comparative study on usefulness of synovial vascularity between knee and metacarpophalangeal joints for evaluation of articular inflammation in patients with rheumatoid arthritis treated by infliximab.	塩　季織	第二内科
World J Gastroenterol, 12(13), 2136-2138, 2006. (平成　年　月)	A case of primary biliary cirrhosis complicated by Behcet's disease and palmoplantar pustulosis.	岩舘治代	第二内科
肝臓, 47(1), 5－9, 2006. (平成　年　月)	自己免疫性肝炎の経過中に抗セントロメア抗体が陽性化し、Raynaud現象が出現した1例.	高橋敦史	第二内科
日本消化器病学会雑誌, 103(10), 1146－1151, 2006. (平成　年　月)	経鼻持続陽圧気道圧法を併用し胸膜癒着術が奏効した難治性肝性胸水の2例.	斉藤理恵	第二内科
福島医学雑誌, 56 (4), 247-252, 2006. (平成　年　月)	微量腹水に対する超音波内視鏡下穿刺吸引細胞診にて癌性腹膜炎と診断された肺癌の一例.	若槻　尊	第二内科
福島医学雑誌, 56 (4), 285, 2006. (平成　年　月)	門脈圧亢進症患者における胆管静脈瘤のIDUSを用いた解剖学的考察.	高木忠之	第二内科
リウマチ科, 36(1), 103－107, 2006. (平成　年　月)	ホスファチジルセリン依存性抗プロトロンビン抗体が検出された脳梗塞発症Klinefelter症候群合併全身性エリテマトーデスの一例.	本間史子	第二内科
肝・胆・膵, 53(4), 505－511, 2006. (平成　年　月)	EUS所見は慢性膵炎の診断に結びつくか.	入澤篤志	第二内科
消化器内視鏡, 18(5), 878-882, 2006. (平成　年　月)	膵嚢胞ドレナージ術.	入澤篤志	第二内科

小計　11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本門脈圧亢進症学会誌, 12(2), 146－150, 2006. (平成　年　月)	胃静脈瘤出血例に対する内視鏡的硬化療法(EIS).	高木忠之	第二内科
Medicina, 43(8), 1350－1352, 2006. (平成　年　月)	超音波内視鏡(EUS)ガイド下治療EUSガイド下穿刺注入 腹腔神経叢ブロック・抗腫瘤療法.	入澤篤志	第二内科
Molecular Therapy, 13(1), 118～126, 2006. (平成2006年　月)	Adenovirus-Mediated Gene Transfer and Lipoprotein-Mediated protein Delivery of Plasma PAF-AH Ameliprates Proteinuria in Rat Model of Glomerulosclerosis.	渡辺 毅	第三内科
Hypertension, 47, 1131～1139,2006. (平成2006年　月)	Amelioration of Genetic Hypertension by Suppression of Renal G Protein-Coupled Receptor Kinase Type 4 Expression.	眞田寛啓	第三内科
Clin. Chem., 52(3), 352～360, 2006. (平成2006年　月)	Diagnosis of Salt Sensitive Hypertension Using Single Nucleotide Polymorphisms.	眞田寛啓	第三内科
神経内科 (平成19年　月)	神経Sweet病の病態.	遠藤一博	神経内科
Journal of Neuroscience Research (平成19年　月)	Possible Role of Astrocytic Glutamine Synthetase Buffering Glutamate-Mediated Neurotoxicity.	星 明彦	神経内科
Intern Med (平成19年　月)	Thymidine Phosphorylase Gene Mutation is not a Primary Cause of Mitochondrial Neurogastrointestinal Encephalomyopathy (MNGIE).	熊谷ユキ絵	神経内科
神経内科 (平成19年　月)	特集 筋硬直, 筋痙攣と周辺疾患, 里吉病.	遠藤一博	神経内科
Neurotrauma Research (平成19年　月)	Possible role of astrocytic glutamine synthetase buffering glutamate-mediated neurotoxicity in chemical preconditioning.	星 明彦	神経内科
日本内科学会雑誌 (平成19年　月)	今月の症例. 睡眠剤中止後に非痙攣性てんかん重積状態を呈した1例.	松田 希	神経内科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床神経学 (平成19年　月)	塩酸チクロピジン関連血栓性血小板減少性紫斑病の1例～頭部MRI拡散強調画像の検討～.	松田 希	神経内科
Allergology International (平成18年　月)	Molecular-based haplotype analysis of the β2-adrenergic receptor gene (ADRB2) in Japanese asthmatic and non-asthmatic subjects	棟方 充	呼吸器内科
今日の治療方針2006 (平成18年　月)	慢性咳嗽	棟方 充	呼吸器内科
Chest (平成18年　月)	A Virtual Bronchoscopic Navigation System for Pulmonary Peripheral Lesions.	石田 卓	呼吸器内科
Journal of Thoracic Oncology (平成18年　月)	Phase II Study of Carboplatin Combined with Biweekly Docetaxel forAdvanced Non-small Cell Lung Cancer	石田 卓	呼吸器内科
Eur Respir (平成18年　月)	Genetic linkage analysis of pulmonary fibrotic response to silica in mice.	斎藤 純平	呼吸器内科
Journal of Asthma (平成18年　月)	Polymorphism of *egfr* intronl is associated with susceptibility and severity of asthma	斎藤 純平	呼吸器内科
Cancer Lett 237(2):242-7,2006. (平成　年　月)	Prognostic impact of p53 protein overexpression in patients with node-negative lung adenocarcinoma.	Suzuki H	第一外科
Clin Cancer Res 12(11 Pt 1):3402-7,2006. (平成　年　月)	Phase II study of docetaxel and S-1 combination therapy for advanced or recurrent gastric cancer.	Yoshida K	第一外科
Genomics 88(3):316-22, 2006. (平成　年　月)	Molecular cloning and characterization of novel splicing variants of human decay-accelerating factor.	Osuka F	第一外科
Gastric Cancer 9(4):308-14, 2006. (平成　年　月)	Detection of cancer cells disseminated in bone marrow using real-time quantitative RT-PCR of CEA, CK19, and CK20 mRNA in patients with gastric cancer.	Fujita Y	第一外科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Clin Cancer Res 12(21):6367-72,2006. (平成　年　月)	Identification of the decay-accelerating factor CD55 as a peanut agglutinin-binding protein and its alteration in non-small cell lung cancers.	Higuchi M	第一外科
日本呼吸器外科学会雑誌 20(6):819-823,2006. (平成　年　月)	術前FDG-PETで集積を認めた胸腺カルチノイドの1例	樋口光徳	第一外科
日本消化器外科学会雑誌 39(8):1374-1379,2006. (平成　年　月)	リンパ節転移を認めた小さな胃カルチノイド腫瘍の1例□ 術中センチネルリンパ節生検の有用性について□	添田暢俊	第一外科
癌と化学療法 33(12):1713-1716,2006. (平成　年　月)	Tissue Array法を用いた肺癌組織におけるHLAクラスⅠ抗原とHLA-G抗原の発現異常に関する検討	鈴木弘行	第一外科
Neurosurgery (平成19年 1月)	High frequency monnopolar electrical stimulation of the rat cerebral cortex	OINUMA Masahiro	脳神経外科
American Journal of Neuroradiology (平成19年 2月)	Dynamic 3D-CT Angiogtraphy	MATSUMOTO Masato	脳神経外科
臨床脳波 (平成18年 6月)	脳動脈瘤手術におけるMEPを用いた脳虚血の探知法	佐久間 潤	脳神経外科
小児の脳神経 (平成18年6月)	低出生体重児の出血後水頭症に対する静脈留置カテーテルを用いた脳室ドレナージの経験	佐久間 潤	脳神経外科
Innervision (平成18年10月)	3D－CTAとDynamic 3D-CTA (d3D-CTA)の臨床的有用性	松本正人	脳神経外科
日本臨床 (平成18年11月)	未破裂脳動脈瘤の診断	松本正人	脳神経外科
日本臨床 (平成18年11月)	脳血管攣縮に対する薬物療法	佐々木達也	脳神経外科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
脳卒中 (平成18年12月)	3D－CTA	松本正人	脳神経外科
Spine31(8):869-872, 2006 (平成　年　月)	Effects on improvement of blood flow in the chronically compressed cauda equina	関口美穂	整形外科
Journal of Neurosurgery5: 26-32,2006 (平成　年　月)	Mid-term and long-term follow-up data after placement of the graf stabilization system for lumbar degenerative disorders	恩田　啓	整形外科
Spine31(5):523-529, 2006 (平成　年　月)	TNF-α and phosphorylation of ERK in DRG and spinal cord　Insight into mechanisms of sciatica	高橋直人	整形外科
Spine31(8):931-939, 2006 (平成　年　月)	Discrepancy between disability and the severity of low back pain: Demographic,psychologic,and employment-related factors	高橋直人	整形外科
Spine32(2):E73-E78, 2007 (平成　年　月)	Effects of the mechanical load on forward bending motion of the trunk Comparison between patients with motion-induced intermittent low back pain and healthy subjects	高橋一朗	整形外科
American Journal of Medical Genetics A:143A:884-887, 2007 (平成　年　月)	Clinical report Spinal extradural arachnoid cysts associated with distichiasis and lymphedema	矢吹省司	整形外科
Jornal of Orthopaedic Science12(2):154-160, 2007 (平成　年　月)	Correlation between inflammatory cytokines released from the lumbar facet joint tissue and symptoms in degenerative lumbar spinal disorders	五十嵐　章	整形外科
静脈学第17巻第4号別冊 (平成18年9月)	福島県における静脈血栓塞栓症の診断・治療および予防の現況	佐戸川弘之	心臓血管外科
The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery Volume132 (平成18年9月)	Three-dimensional quantification of cardiac surface motion:A newly developed three-dimentional digital motion-capture and reconstruction system for beating heart surgery	Toshiki Watanabe(渡邉俊樹)	心臓血管外科
福島県IVR研究会雑誌、第11巻第1号 (平成19年1月)	当院における胸部大動脈疾患に対するステントグラフト治療成績	高瀬信弥	心臓血管外科

小計　11

(注)1.当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2.「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
脈管学、第47巻、No1 (平成19年2月)	静脈血栓塞栓症に対する診断と治療経験	佐戸川弘之	心臓血管外科
福島医学雑誌、第57巻第1号 (平成19年3月)	2005年福島県心臓胸部大血管手術統計報告	佐藤洋一	心臓血管外科
福島医学雑誌、第57巻第1号 (平成19年3月)	急性A型大動脈解離症例に対する診断と治療の現況	佐藤洋一	心臓血管外科
日本コンピュータ外科学会会誌　第8巻第4号 (平成19年3月)	心表面冠動脈運動の定量的解析～拍動下心臓手術のための心表面運動三次元デジテル解析システムの開発～ Three-Dimensional Quantification of Cardic Surface Motion;A Newly Developed 3-Dimentional Digital Motion-Capture and Reconstruction System for Beating Heart Surgery	渡邊俊樹	心臓血管外科
HORMON FRONTIER IN GYNECOLOGY (平成18年4月)	COSにおけるGnRH long protocolの有用性に関する検討	片寄治男	産科婦人科
Reproductive Medicine and Biology (平成18年5月)	Role of mammalian sperm nuclear structre in fertilization and embryo development	片寄治男	産科婦人科
PNAS (平成18年6月)	Simultaneous removal of sperm plasma membrane and acrosome befor intracytoplasmic sperm injection improves oocyte activation/embryonic development	両角和人	産科婦人科
J.Obstet.Gynaecol.Res. (平成　年　月)	Sporadic fetal heart rate decelerations associated with electrocortical changes in fetal lambs	藤森敬也	総合周産期母子医療センター
Arch. Dis. Child. (平成18年 6月)	Prognostic predictive values of serum cytochrome c, cytokines, and other laboratory measurements in acute encephalopathy with multiple organ failure	細矢 光亮	小児科
Pediatr. Int. Dis. J. (平成18年 8月)	Genetic diversity of entervirus 71 associated with hand, foot and mouth disease epidemics in Japan from 1983 to 2003	細矢 光亮	小児科

小計 10

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
Bone Marrow Transplant (平成18年10月)	Nonmyeloablative stem cell transplantation for nonmalignant disease in children with severe organ dysfunction	菊田　敦	小児科
J. Am. Soc. Nephrol. (平成18年10月)	Renal effects of Coxsackie B4 virus in hyper-IgA mice	川崎　幸彦	小児科
Pediatr. Nephrol. (平成18年11月)	Efficacy of tonsillectomy plus therapy versus multiple-drug therapy for IgA nephropathy	川崎　幸彦	小児科
Am J Ophthalmol (平成 19年　1月)	Clinical characteristics of Exudarive Age-related macular Degeneration in Japanese Patients	丸子一朗	眼科
Retina (平成 19年　2月)	Long-term observation of fundus infrared fluorescence after indocyanine green-assisted vitrectomy	石龍鉄樹	眼科
Am J Ophthalmol (平成 18年12月)	Correlation Between ocular Motility and Evaluation of Computed Tomography in Orbital Blowout Fracture	吉田　実	眼科
Eye (平成 18年12月)	Sodium hyaluronate eye dirops prevent late-onset bleb leakage after trabeculectomy with mitomycin C	佐柄英人	眼科
Eur J Ophthalmol (平成　18年　9月)	Bilateral primary choroidal melanoma treated with bilateral plaque radiotherapy: A report of three cases	吉田　実	眼科
Ophthalmic Surgery Lasers & Imaging (平成　18年　6月)	A Surgical Technique to Protect the Macular Hole in Indocyanine Green-Assisted Vitrectomy	齋藤昌晃	眼科
Am J Ophthalmol (平成　18年　5月)	Indocyanine Green Angiography Abnomality of the Periphyery in Vitelliform Macular Dystrophy	丸子一朗	眼科
J Invest Dermatol. 2006;126:90-8 (平成18年7月)	Role of IL-12B promoter polymorphism in Adamantiades-Behcet's disease susceptibility: An involvement of Th1 immunoreactivity against Streptococcus Sangiunis antigen.	Yanagihori H	皮膚科

小計　11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Dermatol Sci. 2006;43:201-5. (平成18年9月)	Single nucleotide polymorphisms of Ficolin 2 gene in Behcet's disease.	Chen X	皮膚科
J Dermatol Sci. 2006;44:93-9. (平成18年11月)	Macrophage-derived chemokine(MDC)/CCL22 produced by monocyte derived dendritic cells reflects the disease activity in patients with atopic dermatitis.	Hashimoto S	皮膚科
J Invest Dermatol. 2006;126:787-96. (平成18年4月)	Behavioral responses of epidermal Langerhans cells in situ to local pathological stimuli.	Nishibu A	皮膚科
J Dermatol Sci. 2007;45:23-30 (平成19年1月)	Roles for IL-1 and TNFalpha in dynamic behavioral responses of Langerhans cells to topical hapten application.	Nishibu A	皮膚科
J Anesth (平成18年　月)	Perioperative repiratory complications caused by cystic lung malformation in Proteus syndrome	Masaki Nakane	集中治療部
緩和医療学 (平成18年　月)	がん終末期患者の「望ましい死」に関する意識調査—福島市民と医師の比較—	出羽 明子	麻酔・疼痛緩和科
日本ペインクリニック学会誌 (平成18年　月)	骨セメント局注療法が著効した転移性踵骨・脛骨腫瘍による癌性疼痛の1症例	林 志保	麻酔・疼痛緩和科
日本頭頸部癌学会誌 (平成 18 年　10月)	口腔癌に対する多剤併用動注化学療法	長谷川博	歯科口腔外科
日本頭頸部癌学会誌 ＊平成18年 11月	高齢者に対する多剤併用動注化学療法	長谷川博	歯科口腔外科
医学検査 (平成 18年 6月)	PCR-Luminex法によるHLA遺伝子タイピングの有用性	齋藤勝治	輸血・移植免疫部
日本気管食道科学会会報 (平成18年 4月)	喉頭・気管狭窄の再生治療.	大森孝一, 他	耳鼻咽喉科

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

高度の医療技術の開発及び評価の実績

(様式第11)　　18年4月～19年3月

2 論文発表等の実績

雑　誌　名	題　　名	発表者氏名	所属部門
分子呼吸器病 (平成18年 5月)	気道の再生と臨床応用.	大森孝一, 他	耳鼻咽喉科
Ann Otol Rhinol Laryngol (平成18年 7月)	Tissue engineering for regeneration of the tracheal epithelium.	Yukio Nomoto, et al.	耳鼻咽喉科
耳鼻咽喉科・頭頸部外科診療のコツと落とし穴 ③喉頭・咽頭疾患 (平成18年 8月)	低侵襲で機能的な内視鏡下の喉頭手術.	大森孝一	耳鼻咽喉科
Tissue Eng (平成18年 9月)	Effect of fibroblasts on tracheal epithelial regeneration in vitro.	Ken Kobayashi, et al.	耳鼻咽喉科
Laryngoscope (平成18年10月)	Age-dependent degeneration of the stria vascularis in human cochleae.	Teruhisa Suzuki, et al.	耳鼻咽喉科
Laryngoscope (平成18年11月)	Congenital cytomegalovirus infection diagnosed by polymerase chain reaction with the use of preserved umbilical cord in sensorineural hearing loss children.	Hiroshi Ogawa, et al.	耳鼻咽喉科
再生医療 (平成18年11月)	甲状腺癌治療における気道の再生医療.	大森孝一, 他	耳鼻咽喉科
エントーニー (平成19年 2月)	甲状軟骨形成術Ⅰ型のコツ.	多田靖宏, 大森孝一	耳鼻咽喉科
The Journal of Infectious Diseases (平成19年 3月)	Etiology of severe sensorineural hearing loss in children: Independent impact of congenital cytomegalovirus infection and GJB2 mutations.	Hiroshi Ogawa, et al.	耳鼻咽喉科
日本臨床細胞学会雑誌 (平成　年　月)	肺類基定細胞癌(basaloid arcinoma)の1例	渡邊 一男	病理部
Histopathology (平成　年　月)	Uterine leiomyoma versus leiomyosarcoma: a new attempt at differential diagnosis based on their cellular characteristis	Kazuo Watanabe	病理部

小計 11

(注)1当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る)。
2「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。